

教育の状況

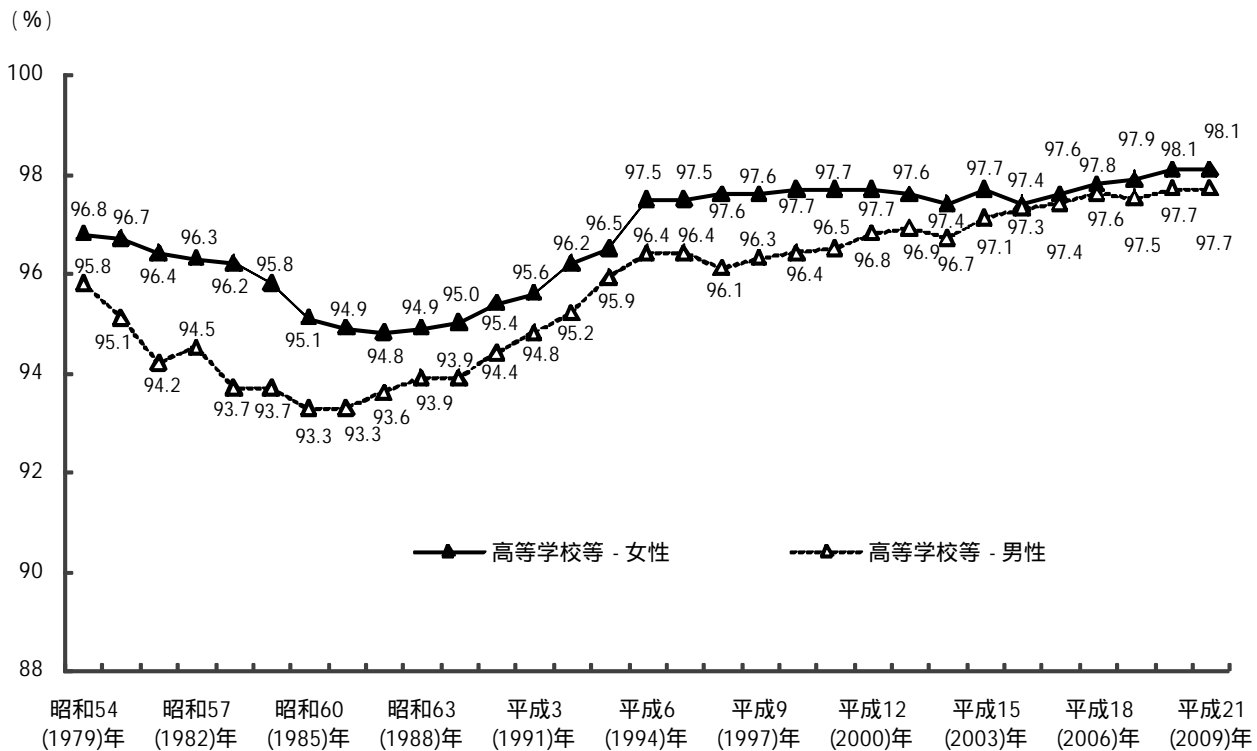
1. 進学率の推移

都の高等学校へ男性の進学率は昭和 54（1979）年の 95.8%から緩やかに減少して、昭和 60（1985）年には 93.3%となった。その後、緩やかな上昇傾向となり、平成 21（2009）年が 97.7%となっている。

女性の進学率は、昭和 54（1979）年の 96.8%から緩やかに減少して、昭和 62（1987）年には 94.8%となった。その後、緩やかな上昇傾向となり、平成 21（2009）年が 98.1%となっている。

女性の進学率は一貫して男性の進学率を上回っている。

図表 - 1 - 1 高等学校進学率の推移(都)

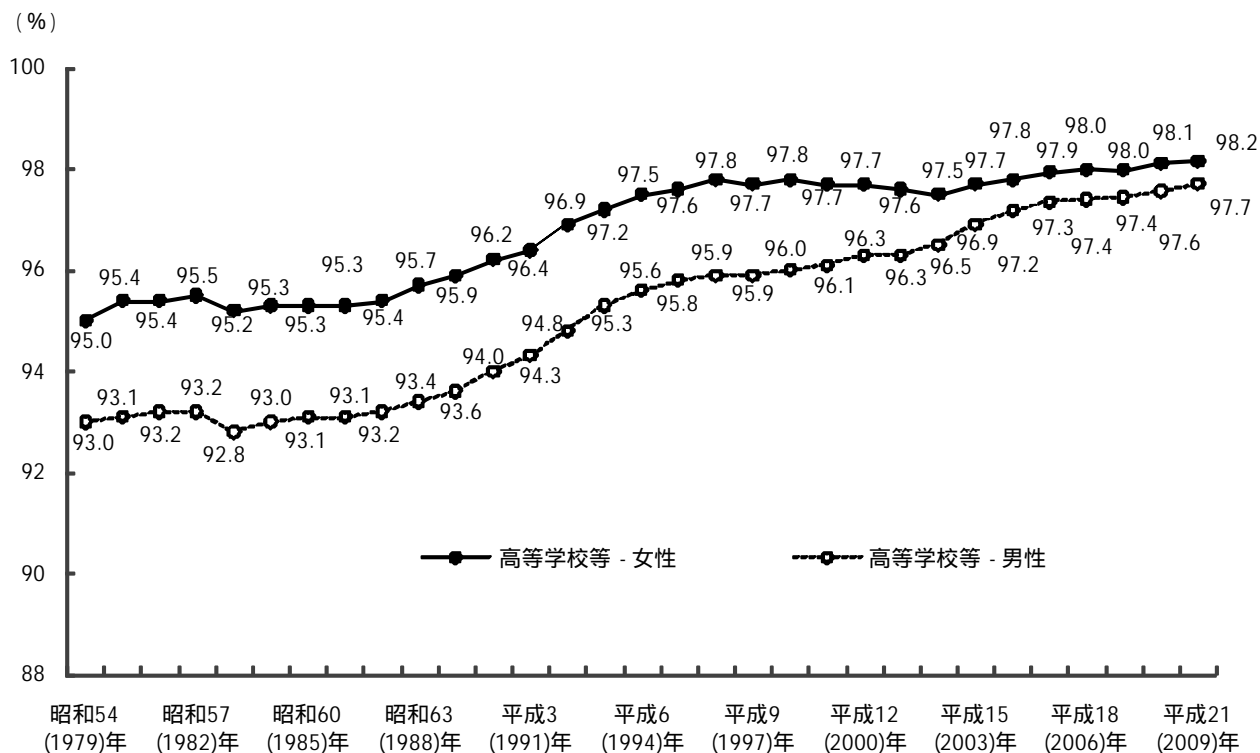


注：高等学校等への進学率とは、中学校卒業後及び中等教育学校前期課程修了者のうち、高等学校、中等学校後期課程及び特別支援学校高等部の本科・別科並びに高等専門学校に進学した者（就職進学した者を含み、過年度中卒者等は含まない。）の占める比率。昭和 58 年以前は、高等学校の通信制課程（本科）への進学者を除いた数値である。

資料：文部科学省「学校基本調査」

全国の高等学校への進学率は男女とも、緩やかな上昇傾向にあり、男性の進学率は昭和 54 (1979) 年が 93.0%、平成 21 (2009) 年が 97.7%となっている。
 女性の進学率は、昭和 54 (1979) 年が 95.0%、平成 21 (2009) 年が 98.2%となっている。
 女性の進学率は一貫して男性の進学率を上回っている。

図表 - 1 - 2 高等学校進学率の推移(全国)

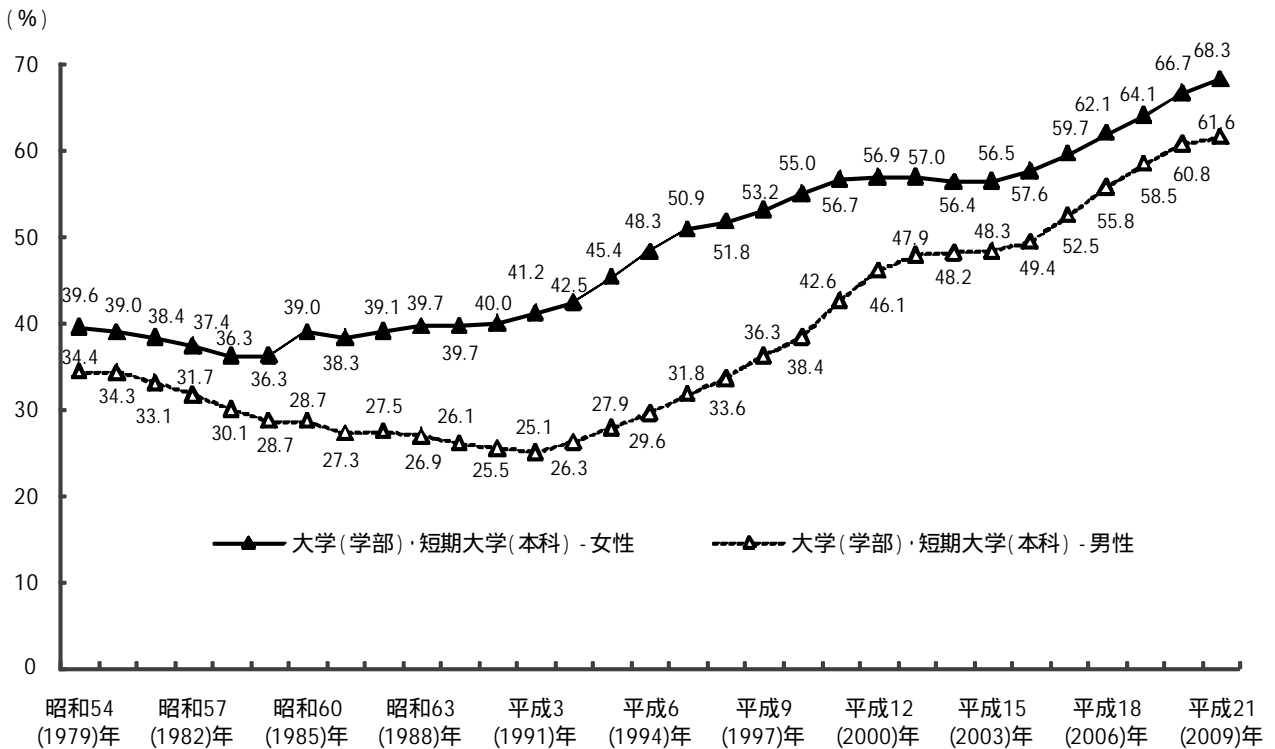


注：高等学校等への進学率とは、中学校卒業後及び中等教育学校前期課程修了者のうち、高等学校、中等学校後期課程及び特別支援学校高等部の本科・別科並びに高等専門学校に進学した者（就職進学した者を含み、過年度中卒者等は含まない。）の占める比率。昭和 58 年以前は、高等学校の通信制課程（本科）への進学者を除いた数値である。

資料：文部科学省「学校基本調査」

都の大学への現役進学率は男性は昭和 54(1979)年から平成 3(1991)年までは減少傾向にあり、昭和 54(1979)年の進学率は 34.4%であったが、平成 3(1991)年には 25.1%となっている。その後は上昇傾向に入り、平成 21(2009)年には 61.6%となっている。女性は、昭和 54(1979)年から平成元(1989)年まではほぼ横ばいで 36.3%から 39.7%の間で推移していたが、平成 2(1990)年以降は上昇傾向に入り、平成 21(2009)年には 68.3%となっている。女性の進学率は一貫して、男性の進学率を上回っている。

図表 - 1 - 3 大学進学率の推移(都)



注1：大学(学部)・短期大学(本科)への現役進学率とは、各年3月の高等学校本科卒業者のうち、大学の学部・通信教育部・別科、短期大学の本科・通信教育部・別科及び高等学校等の専攻科に進学した者(就職進学した者を含む。)の占める比率である。

注2：昭和59(1984)年までは、大学・短期大学の通信教育部への進学者を除く。

資料：文部科学省「学校基本調査」

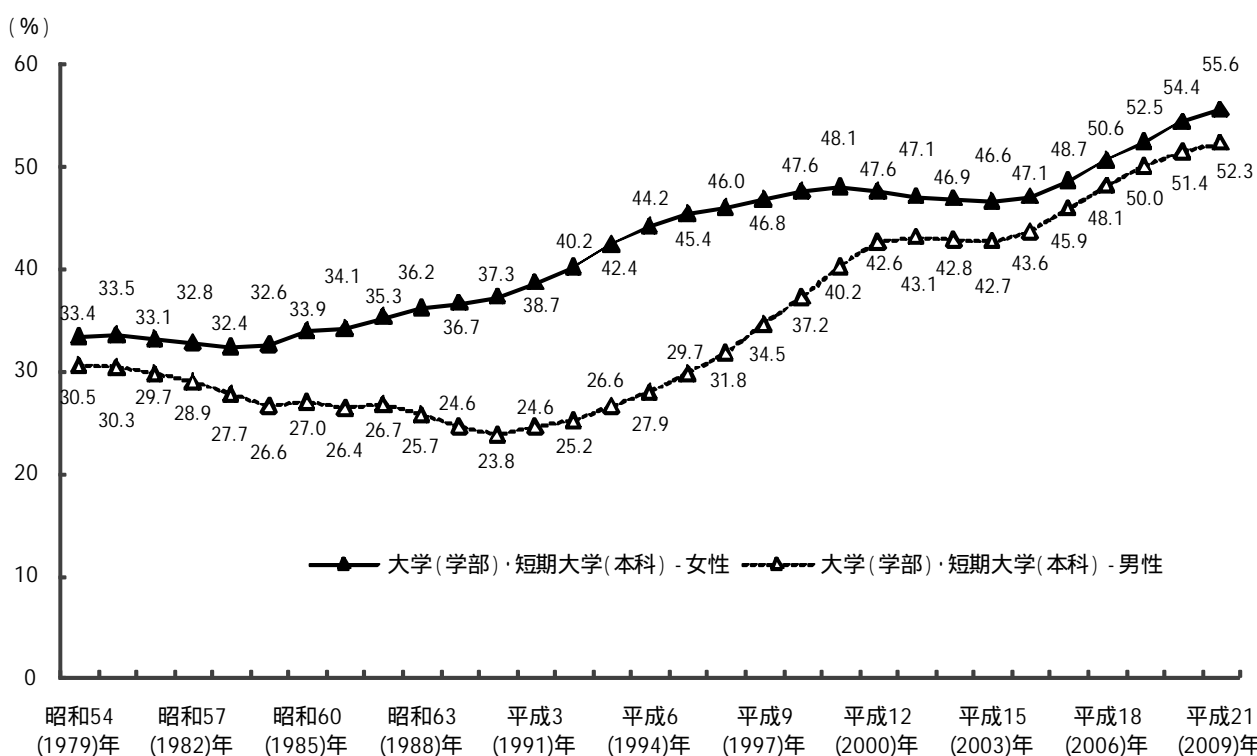
女子差別撤廃条約採択から 30 年の東京の男女の現状

全国の大学への現役進学率は男性は昭和 54（1979）年から平成 2（1990）年までは減少傾向にあり、昭和 54（1979）年の進学率は 30.5%であったが、平成 2（1990）年には 23.8%となっている。その後は上昇傾向に入り、平成 21（2009）年には 52.3%となっている。

女性は、ほぼ上昇傾向にあり、昭和 54（1979）年の進学率は 33.4%であったが、平成 21（2009）年には 55.6%となっている。

女性の進学率は一貫して、男性の進学率を上回っている。

図表 - 1 - 4 大学進学率の推移(全国)



注1：大学（学部）・短期大学（本科）への現役進学率とは、各年3月の高等学校本科卒業者のうち、大学の学部・通信教育部・別科，短期大学の本科・通信教育部・別科及び高等学校等の専攻科に進学した者（就職進学した者を含む。）の占める比率である。

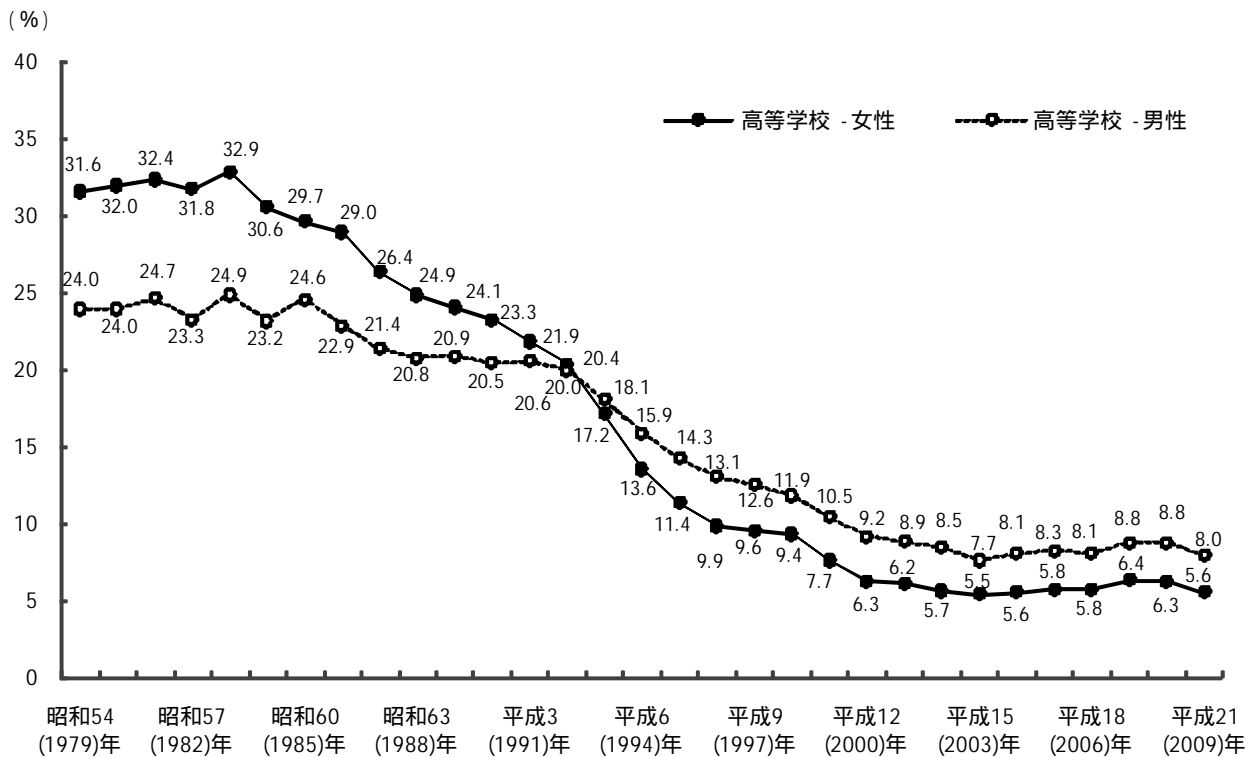
注2：昭和 59(1984)年までは、大学・短期大学の通信教育部への進学者を除く。

資料：文部科学省「学校基本調査」

2. 就職率の推移

都の高卒男性の就職率は昭和 60（1985）年からほぼ減少傾向にあり、昭和 60（1985）年の 24.6% が平成 21（2009）年には 8.0% となっている。
 高卒女性の就職率は昭和 58（1983）年からほぼ減少傾向にあり、昭和 58（1983）年の 32.9% が平成 21（2009）年には 5.6% となっている。
 平成 5（1993）年に初めて、男性の就職率が女性を上回り、それ以降は男性の就職率が女性より高い状況が続いている。

図表 - 2 - 1 高等学校卒業者の就職率の推移(都)



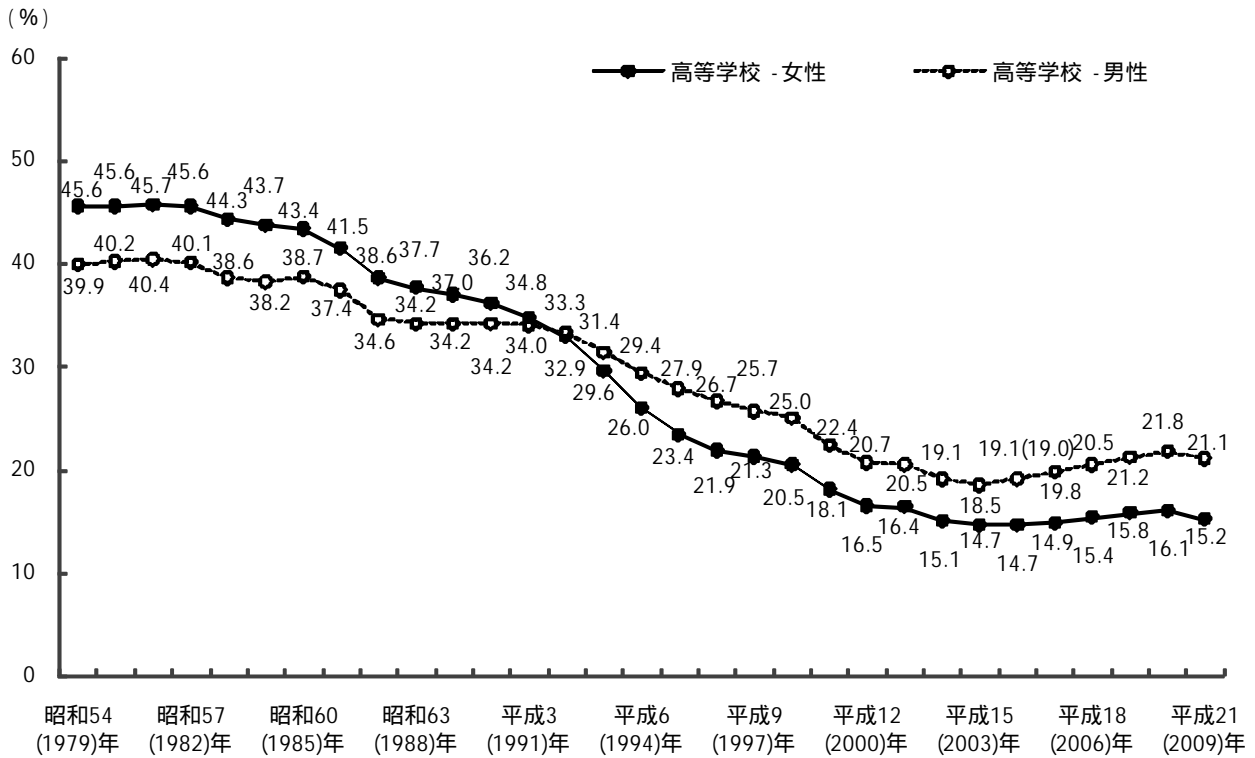
注：各年 3 月卒業者のうち、就職者（就職進学者を含む。）の占める割合である。

資料：文部科学省「学校基本調査」

女子差別撤廃条約採択から30年の東京の男女の現状

全国の高卒男性の就職率は昭和54(1979)年からほぼ減少傾向にあり、昭和54(1979)年の39.9%が平成21(2009)年には21.1%となっている。
 高卒女性の就職率は昭和54(1979)年からほぼ減少傾向にあり、昭和54(1979)年の45.6%が平成21(2009)年には15.2%となっている。

図表 - 2 - 2 高等学校卒業者の就職率の推移(全国)



注1：各年3月卒業者のうち、就職者（就職進学者を含む。）の占める割合である。

注2：（）内の数値は、高等学校卒業者に中等教育学校後期課程卒業者をそれぞれ加えて算出した就職率である。

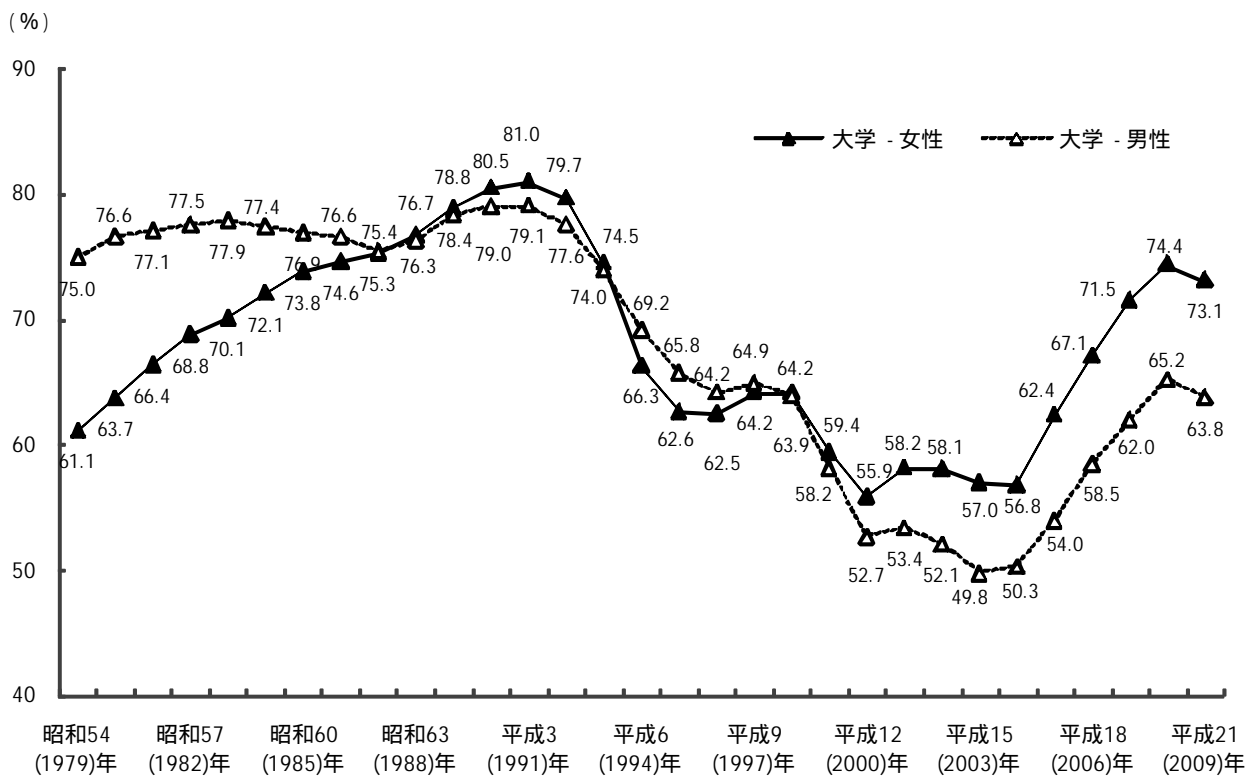
資料：文部科学省「学校基本調査」

都の大卒男性の就職率は昭和 54 (1979) 年から平成 4 (1992) 年まで 75% ~ 79% 前後の状況で推移していたが平成 3 (1991) 年の 79.1% をピークとして、減少傾向に入り、平成 15 (2003) 年には 49.8% となった。その後は上昇傾向に入り、平成 21 (2009) 年は 63.8% である。

大卒女性の就職率は昭和 54 (1979) 年に 61.1% であったが、昭和 63 (1988) 年に 76.7% となり、大卒男性の就職率を上回った。

平成 3 (1991) 年の 81.0% をピークとして、減少傾向に入り、平成 12 (2000) 年には 55.9% となった。その後は上昇傾向に入り、平成 21 (2009) 年は 73.1% である。

図表 - 2 - 3 大学卒業者の就職率の推移(都)



注：各年 3 月卒業者のうち、就職者（就職進学者を含む。）の占める割合である。

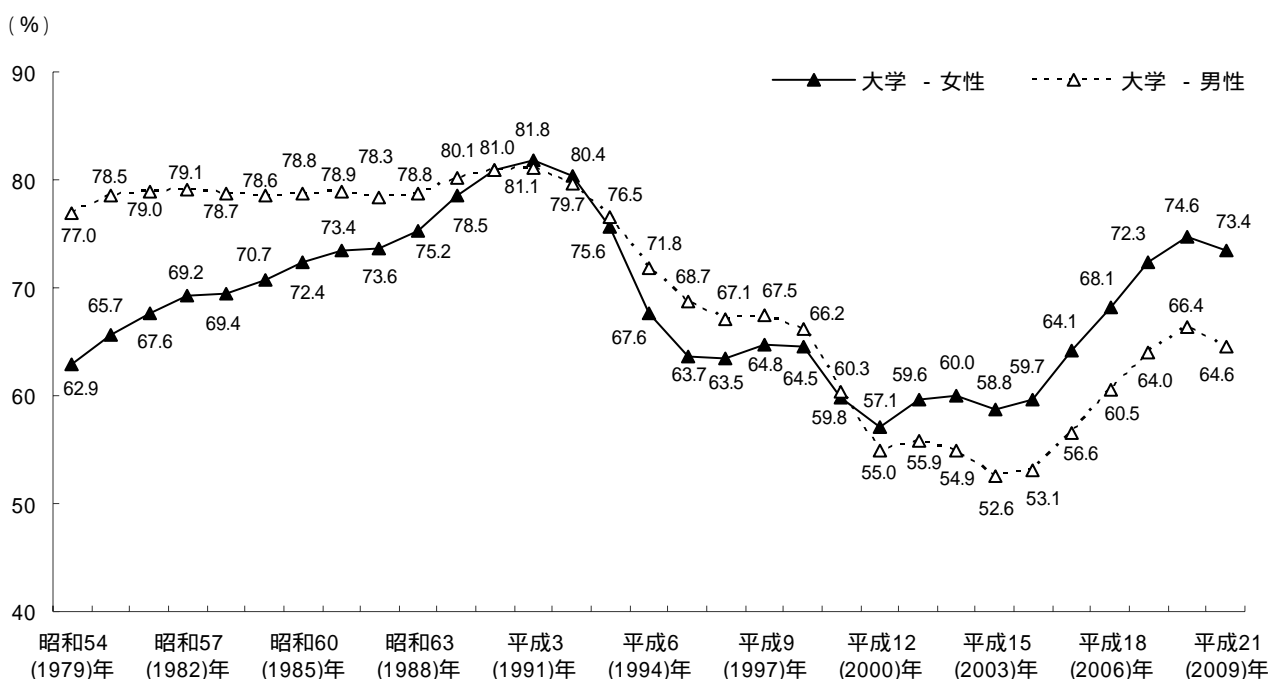
資料：文部科学省「学校基本調査」

全国の大卒男性の就職率は昭和54(1979)年から平成3(1991)年まで80%前後の状況で推移していたが平成3(1991)年の81.1%をピークとして、減少傾向に入り、平成15(2003)年には52.6%となった。その後は上昇傾向に入り、平成21(2009)年は64.6%である。

大卒女性の就職率は昭和54(1979)年に62.9%であったが、平成3(1991)年まで一貫して上昇し平成3(1991)年に81.8%となり、大卒男性の就職率を上回った。

それ以降は減少傾向に入り、平成12(2000)年には57.1%となった。その後は上昇傾向に入り、平成21(2009)年は73.4%である。

図表 - 2 - 4 大学卒業者の就職率の推移(全国)



注：各年3月卒業者のうち、就職者（就職進学者を含む。）の占める割合である。

資料：文部科学省「学校基本調査」